

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*** 井上四郎資料 3 (三鷹村大沢 天文台南の水田の写真発見)**

国立天文台の前身の一つである東京天文台は関東大震災までは現在の港区麻布飯倉にあった。明治末期には狭隘でかつ市街地化した麻布から移転が唱えられるようになり、1909年(明治42年)当時の府下北多摩群三鷹村大沢の地に73,284坪を購入し、その後、民間からの寄付、内務省からの土地交付などで合計92,890坪の土地を入手した。1914年(大正3年)頃から三鷹の地に新天文台の建設は始まった。しかし移転は遅々として進まなかったが、1923年(大正12年)の関東大震災を機に、三鷹移転が急速に進み1924年9月には移転が一段落した。井上四郎は大正9年から昭和7年の間、東京天文台に在籍しているから、まさに麻布から三鷹への移転期を過ごした人である。

アーカイブ室新聞18号に、大正時代、東京天文台で太陽の写真観測をした井上四郎氏のお孫さんに会っていろいろお話を伺い、貴重な写真などをいただいた記事を書いた。

そのいただいた写真の中に当時の東京天文台南に広がる水田の写真があった。遠くどこかの田舎の景色と思われる写真1である。当時の様子を知る事ができる。



写真 1 「天文台南側がけ上より南方を望む」